

ブヨ(ブユ)

シュタイクアイゼン／西部ブロック

長野に3泊4日で家族旅行に行きました。

特に金持ちでもない我が家、ホテルには泊まらずキャンプ場にテントを張ってそこから車で足を延ばします。観光をしたり温泉に行ったり、キャンプは目的ではなく宿泊手段です。食事はキャンプ場について日などはBBQをしたりしますが、観光に行った先の店で食べたり、近くのお店で食事したり、面倒な時はスーパーの惣菜ですませたりです。手の込んだキャンプ飯を頑張っ作ったりはしないので、アウトドアとして、キャンプとしてはどうなの？という感じもしますが、でも休日なので頑張りません。

大型のテントとタープを張れば、快適に過ごせる訳でして、近くの川でも遊べる。子供も楽しそうだし、なにより長めの旅行を安上がりに計画できる。ついでに自然と触れ合う経験も。多少の不便は、今の便利な時代に生きる子供の教育にも良いはずです。

ただしやっぱりアウトドア、ドアの内側とは違います。ホテルと決定的な差はそう“虫”です。当然対策はします。地面とテントの中は虫よけスプレー、さらにはタープとテントは網のスクリーンで防御します。おかげで滞在中は何の問題もなく過ごせました。それが逆によくなかった。最終日、早朝に目を覚まし撤収作業を開始、完全に油断した僕は虫よけスプレーを体につけないまま。足首が草の先に当たってなにか“こそばゆい”ような“痒い”ようなような、「ん、痒い?」。足首を見ると虫にやられた跡が10か所以上も。“ブヨ”の仕業です。徐々に足首が腫れあがり、両足のくるぶしが姿を消します。猛烈な痒みはやがて痛みへと変わっていきます。薬を塗り鎮痛剤を飲んでも激痛が、結局痛みは数日間、腫れは1週間ほど続きました。ちょっとした隙でえらい目に、いい体験をしました。この経験を生かし、さらなる虫対策を研究しようと、今も足に残る虫刺されの跡を見ながら心に誓うのでした。

これからどうなるの

古い考えの人／中部ブロック

ここ数年、気温が上がり猛暑の夏が当たり前になってきました。暑すぎて海水浴場も行く人がいなくなると思っても見ませんでした。オクシズの梅ヶ島でも気温が30度を超えることがほとんどなく「ここは涼しいねえ」言っていたところでも、日中は31~33度になりエアコンが欲しくなってきたと言っております。こんな暑い中でも作業をしなければならないので、空調服を着る作業員が増えました。でも、正直38~40度の暑さでは外の作業を1日するのは限界では?と思ってきました。もう努力根性でも、さすがにどうしようもない時代だと感じております。

また、暑いだけではなく、線状降水帯の雨や洪水、雷、土砂崩れなど、身近で多くの災害に見舞われ、人が普通に暮らすのも大変になってきたのではないかと思います。

国や県、市町村は公共交通機関を使うようにとお願いしながら、バスや電車は運転手がいらない・赤字路線だから廃線や本数減、20時以降無しのところが増えました。タクシーはコロナ禍から台数が減り、お酒を飲んで帰ろうと思っても平日でも30分~1時間待ちするときも多くなりました。

令和になり、生活スタイルや年齢層の変化や人口減、高齢化社会の現実や子育て負担増、またIT化による日常の変化が物凄い速さで進んでいるのに、中身は昭和のまま変わっていない。だから使いにくいし、生活が大変な世の中なのかなと感じております。政治も派閥や自分たち党の存続が中心で、国民のために動いていないのでは?確かに存続だけでも大変だと思いますが、そろそろ限界だと思います。地球が悲鳴を上げている今を真剣に取り組んで頂きたいと思います。

建築は私達、建築士が変えることができます。街並みやまちづくり、耐震や省エネ・環境など生活に係わる大事な仕事ができます。それは、これからの社会がより良い暮らしができるように、選び進めることができるのです。建築士も減ってきており、「大工」もなりた職業トップ10から消えましたが、人が生きている限り無くならない職業です。

今一度、見つめ直し、魅力ある建築業界に変わっていきたいですね!でも、本当にどうなるのだろうか?